

▼関西

サクラの名所 大津・長等公園
から三井寺へ

散策同好会・写真同好会 合同
で例会

田仲 和彦(TVO)

サクラ満開の3月29日、散策同好会は写真同好会との合同例会を滋賀県大津市の長等山(ながらやま)山麓で開催しました。22名が参加、3年に及んだコロナ禍が大きな峠を超え、日常生活が戻り始めた春の一日、素晴らしい快晴にも恵まれて、満開のサクラを心から楽しみました。



午前10時にJR大津駅に集合し、20分ほど歩いて長等公園へ。明治時代に県内初の都市公園として整備された同公園には、約900本の各種サクラが濃淡の色鮮やかに一斉に咲いており、思わず歓声がもれました。公園奥の山道を少したどると琵琶湖を眺め渡す展望台もあり、その脇には

さざ浪や
滋賀の都はあれにしを

むかしながらの山ざくらかな
と「平忠度」の和歌が刻まれた歌碑。写真同好会のメンバー10人は、思い思いのスタイルで撮影に夢中でした。

11時から公園内にある「三橋節子(みつはし・せつこ)美術館」へ。鎖骨腫瘍のため利き腕を失い2年間、画筆を左手に持ちかえて創作を続け、35歳で夭折した地

元ゆかりの日本画家です。琵琶湖の伝説などを題材にした、赤と黒を基調とする情感あふれる作品群を鑑賞。その後、長等神社前を経て、琵琶湖疏水の両岸を埋め尽くすサクラ並木に遭遇。ここでも写真同好会のメンバーが盛んにシャッターを切る姿がありました。



ちようど正午となり、三井寺仁王門わきの「れすとらん風月」に向かいました。二階広間の昼食会場に入ると、窓一面に満開のサクラ。二つの同好会の代表から「合同開催」を喜ぶ挨拶があり、豊かな気分で「点心三井の晩鐘」を頂きました。



午後は三井寺の自由散策。レストランそばの仁王門から広い境内に入ると、ちようど「三井の晩鐘」の荘厳な鐘の音が聞こえ、境内1500本といわれるサクラは満開。金堂からゆっくりサクラ並木をたどり長い階段を上ると、絶景スポットの観音堂。この頃には気温が20度近くまで上がり、陽射しも強くなつていましたが、ベンチに座つてのお喋りを楽しむ女性散策会員の姿がありました。

写真同好会のメンバーは各所に分かれ、境内を散策しながら存分に撮影を楽しみました。